

「東京経済大学図書館所蔵
ドイツ社史・企業者伝記目録」

大 月 誠^{*}

ここに取上げる「東京経済大学図書館所蔵
ドイツ社史・企業者伝記目録(その1 目録の
部)(その2 索引の部)」(Deutsche Wirt-
schaft in Fest- und Denkschrift. Eine Bib-
liographie des Besitzes von Wirtschafts-
Hochschule Tokio vom Jahre 1973 ab)
『東京経大会誌』第85号, 1974年3月, 99
—171ページ, 第86号, 1974年7月, 97—149
ページ〔その1・その2の合本別刷も出版さ
れた〕は, それに付されたドイツ語の「序文」
(Zum Geleit)によると, ミュンスター大学
留学中の T. Fukuoh〔福広健〕氏の協力
のもとに同大学図書館が1973年までに収集した
816タイトルの「ドイツ社史・企業者伝記」を,
T. Takanashi〔高梨武臣〕と H. Sakamoto
〔坂本寛〕の両氏が24の大産業分類に分類し
目録としたものである。やや古いが『神戸大
学経済経営研究所蔵社史目録』(1965年)所
収のドイツ社史は230タイトル, 同じく『立
命館大学経営学部社史目録』(1969年)所収の
ものが288タイトルであったのに比べると
ば, 量的にも格段の差をもっていることが明
らかであるが, 質的にも充実している。

この「ドイツ社史・企業者伝記目録」の意
義と問題点を明確にするために, ドイツでの
目録作成状況を示しておくならば以下のよう
である。まず, 出版総目録はメッセ・カタロ
グとして出発するのであって, ハインジウス

(Wilhelm Heinsius 1768—1817) によって
創刊された Allgemeines Bücher-Lexikon
oder vollständiges alphabetisches Verzei-
chniß der von 1700 bis zu Ende 1810 erschie-
nenen Bücher, welche in Deutschland
und in durch Sprach und Literatur damit
verwendten Ländern gedruckt worden
sind, Bd. 1: A—F—Bd. 19, T. 2: L—Z,
Leipzig 1812—1892 を嚆矢として, カイザー
(Christian Gottlob Kayser 1782—1857) の
Vollständiges Bücher-Lexicon, enthaltend
alle von 1750 bis zu Ende des Jahres 1832
in Deutschland und in den angrenzenden
Ländern gedruckten Bücher, T. 1: A—
C—T. 36: 1910, Leipzig 1834—1912 を経
て Hinrichs' Bücher-Catalog, bearb. v.
Adolph Büchting und Eduard Baldamus,
Leipzig 1875—1913 (Berichtsjahre: 1851/
65—1910/12); Gustav Thelert, Supplement
zu Heinsius', Hinrichs' und Kaysers Bü-
cher-Lexikon. Verzeichnis einer Anzahl
Schriften, welche seit der Mitte des neun-
zehnten Jahrhunderts in Deutschland
erschienenen, in den genannten Katalogen
aber nicht oder fehlerhaft aufgeführt
sind, Großenhain und Leipzig 1893, 405
S.; Schlagwort-Katalog-Verzeichnis der
Bücher und Landkarten in sachlicher

* おおつき まこと 竜谷大学経済学部助教授

Anordnung, bearbeitet v. Carl Georg und Leopold Ost, Bd. 1: 1883-1887, Hannover 1889—Bd. 7, T. 2: L-Z, Leipzig 1912 へと受継がれる。そして、1848年の「3月革命」でドイツ中央図書館の設立が提起されながら果されなかったのが、1912年にライプツィヒにドイチェ・ビュヘライが創設されると、ここから Deutsches Bücherverzeichnis (Fünfjahreskatalog, 1916ff.) を経て Deutsche Nationalbibliographie und Bibliographie des im Ausland erschienenen deutschsprachigen Schrifttums (1931ff.) が出版されるようになる。これは現在は、Reihe A: Neuerscheinungen des Buchhandels (週刊), Reihe B: Neuerscheinungen außerhalb Buchhandels (半月刊) と Reihe C: Dissertationen und Habilitationsschriften (月刊) に分れており、社史・団体史の出版状況は、主として Reihe B の第5分類「経済・社会・統計」(Wirtschaft, Gesellschaft, Statistik)、第20分類「技術、工業と手工業」(Technik, Industrie und Handwerk) と第21分類「商業・交通・事務組織」(Handel, Verkehr, Bürowesen) から知らねばならないが、収録もれが非常に多い。なお、別に Bibliographie der deutschen Bibliographien (月刊) があって、目録類の出版状況はこれから知ることができる。1948年に東西両ドイツの分裂が明瞭になると、今一つのメッセ都市フランクフルト・アム・マインにドイチェ・ビブリオテークが創設され、ここからは Deutsche Bibliographie (週刊および半年刊) が出版されるようになり、1945—1950年の出版物については Deutsche Bibliographie 1945-1950 も出ている。こうして、戦後のドイツは二つの総目録を持つことになるのであるが、1834年のドイツ関税同盟の成立を転期に1835年に

創刊された Börsenblatt für den deutschen Buchhandel も東西に分裂した。

その他、専門別の目録で当面の問題に関係するものとしては、Bibliographie der Sozialwissenschaften, Berlin 1905ff. があり、さらに Jahresberichte für deutsche Geschichte, Jg. 1-18, Leipzig 1927-1942 (Berichtsjahre: 1925-1940): dass. N. F., Jg. 1ff., Berlin 1952ff. がある。また、オーデル・ナイゼ川以東の旧ドイツ領については、ポーランドで出版された目録が有用であるが、そうしたものとしてはさしあたり、Wiktor Hahn, Bibliografia bibliografij polskich do 1950 roku, wyd. trzecie, Wrocław-Warszawa-Kraków 1966, XXIV, 587 s.; Bibliografia historii Polski, t. 1-2, Warszawa 1965; Bibliografia historii polskiej, Wrocław-Warszawa-Kraków-Gdańsk (年報) がある。そして、なによりも社史を多く収録しているのは、ドイツ各地の地方史目録であるが、それらの出版状況は、Reinhard Oberschelp, Die Bibliographien zur deutschen Landesgeschichte und Landeskunde im 19. und 20. Jahrhundert, Frankfurt a. M. 1967 (Zeitschrift für Bibliothekswesen und Bibliographie, Sonderheft 7) によって知られる。また、蔵書目録としては、キール大学の世界経済研究所およびミュンヘンの現代史研究所のものが有益である。

こうした目録類から社史を見付けだすことは容易でなく、独自の社史目録の作成が要請されるのであるが、それは次のような形で果された。(1)ライヒスバンク所蔵の社史約2000タイトルを基礎にして1937年に、H. Corsten, Hundert Jahre deutscher Wirtschaft in Fest- und Denkschriften. Eine Bibliographie, Köln 1937 が出版された。大戦前に出

版された唯一の社史日録であるこれは約4000タイトルを含んでいるが、その産業分類は東経大「ドイツ社史・企業者伝記日録」に継承される。(2)ハンブルクの世界経済アルヒーフから、1961年に同所所蔵社史の日録 Verzeichnis der Fest- und Denkschriften von Unternehmungen und Organisationen der Wirtschaft im hamburgischen Welt-Wirtschafts-Archiv, Hamburg 1961, iv, 566 S. が出版された。これもまた約4000タイトルを含んでいる。(3)1960年に東ドイツの科学アカデミーから Jahrbuch für Wirtschaftsgeschichte が創刊されるが、同誌は二つの社史日録を連載し始める。その1は、Bibliographie selbständiger Schriften zur Geschichte der Fabriken und Werke, die nach 1945 im Gebiet der Deutschen Demokratischen Republik erschienen sind, bearb. v. Hans Radandt und Horst Handke(1960, T. 1, S. 353-363; 1961, T. 1, S. 363-371; 1963, T. 3, S. 298-306. Eine Zusammenfassung dieser drei Teile u. d. T.: Bibliographie selbständiger Schriften zur Betriebsgeschichte, bearb. v. Horst Handke, Berlin 1964, 45 S.); Bibliographie selbständiger Schriften zur Betriebsgeschichte in der Deutschen Demokratischen Republik, bearb. v. Renate Günther (1968, T. 4, S. 403-423; 1969, T. 4, S. 271-283; 1970, T. 4, S. 301-306; 1971, T. 4, S. 289-293; 1972, T. 4, S. 281-288; 1973, T. 4, S. 283-286)である。当初はA「個別工場・事業所と元コンツェルンに関する叙述」とB「総括的叙述」の2篇から成っていたのが、途中から編集方針が変更される。また、必ずしも発行年度別に整理されているとはいえないが、ともかくソビエト占領地区とそれに続くドイツ民

主共和国における国营企業(VEB)を中心とした社会主義経営史の出版状況を、これによって知ることができる。その2は、Bibliographie von Veröffentlichungen zur Geschichte der kapitalistischen Unternehmen, die nach 1945 in Westdeutschland und Westberlin erschienen sind, bearb. v. Alfred Fischer (1960, T. 2, S. 355-402; 1962, T. 3, S. 207-314; 1968, T. 2, S. 407-423)であって、経営史に関する新聞記事・雑誌論文を含めて収録しているが、戦後の西ドイツの社史発行の状況が知られる。その収録社史を発行年度別にみると、最も多い1962年で114タイトルであるから、若干の脱落はあるものと思われる。1965年(2タイトル)で終わっている。別に、Bibliographie zur Betriebsgeschichte des Bezirks Leipzig. Vor 1945 erschienene Druckschriften, die in den Bibliotheken, Archiven und Museen des Bezirks Leipzig vorhanden sind, bearb. v. Karl Wiegel (1966, T. 1, S. 284-324)があり、戦前のライプツィヒ地区の社史532タイトル・総括的叙述12タイトル・企業新聞43タイトルを収録している。(4)1956年に西ドイツで創刊された経営史の専門雑誌 Tradition. Zeitschrift für Firmengeschichte und Unternehmerbiographie に、1967年から1972年にかけて Ina Neumann, Bibliographie zur Firmengeschichte und Unternehmerbiographie I-XVII (Jg. 12, 1967, H. 3, S. 441-448; Jg. 12, 1967, H. 5, S. 545-552; Jg. 13, 1968, H. 1, S. 48-56; Jg. 13, 1968, H. 3, S. 153-160; Jg. 13, 1968, H. 5, S. 265-272; Jg. 14, 1969, H. 1, S. 57-64; Jg. 14, 1969, H. 3/4, S. 216-224; Jg. 14, 1969, H. 6, S. 339-346; Jg. 15, 1970, H. 2/3, S. 160-167; Jg. 15, 1970, H. 4, S. 217-224; Jg.

15, 1970, H. 6, S. 321-328; Jg. 16, 1971, H. 2, S. 97-104; Jg. 16, 1971, H. 3/4, S. 201-208; Jg. 16, 1971, H. 5/6, S. 304-312; Jg. 17, 1972, H. 2, S. 101-104; Jg. 17, 1972, H. 3/4, S. 200-208; Jg. 17, 1972, H. 5/6, S. 326-334)が連載された。これは1966年から1970年までに出版されたものを、各年度ごとに、Ⅰ「社史」、Ⅱ「個人伝および家族史」、Ⅲ「会議所史および団体史」、Ⅳ「記念出版物(間接的にまたは主として社史の内容のもの)」に分けて収録したものであるが、収録範囲はスイス・オーストリア・東ドイツ・オランダ・リヒテンシュタイン等のものを若干は含んでいるけれども、西ドイツが圧倒的である。その収録タイトル数は、1966年度は、Ⅰ:137, Ⅱ:19, Ⅲ:16, Ⅳ:11の合計183タイトル, 1967年度は、Ⅰ:188, Ⅱ:32, Ⅲ:13, Ⅳ:25の合計258タイトル, 1968年度は、Ⅰ:215, Ⅱ:21, Ⅲ:15, Ⅳ:18の合計269タイトル, 1969年度は、Ⅰ:192, Ⅱ:15, Ⅲ:23, Ⅳ:24の合計254タイトルであって、1970年度については、Ⅰ:132タイトル A~Si の項まで)が収録されているのみで、それ以後はこの雑誌の廃刊にともない中断した。

さて、東経大「ドイツ社史・企業者伝記目録」は、同大学図書館が1973年までに収集した816タイトルを、先述のように産業分類を行い、全体にNr 1からNr 819の通し番号を付して収録し、巻末に「企業名索引」、「著者名索引」、「地名索引」および「カレンダー索引」を加えたものである。その通し番号のうち、Nr 273, Nr 304 と Nr 580 は番号がとんでタイトルが欠落しているから、実際に収録されているのは816タイトルである。

各タイトルの記載方法は以下の順で行われている。(ア)企業名(または人名)。その際、

株式会社(Aktiengesellschaft, Aktiengesellschaft), 有限責任会社(Gesellschaft mit beschränkter Haftung, G. m. b. H.), 合資会社(Kommanditgesellschaft)については、それぞれAG, GmbH, KG.の略記号を用いている。人名のうち、名(Vorname)が頭文字のみであるか一部に省略されている場合も原文のままとし、完全名への復元は行っていない。(イ)社史発行時の本社(または当該工場等)の所在地。同名の都市が他に存在する場合、または小都市(村)の場合には、河川名、地域名が併記される。(ウ)表題紙記載の書名。年次が欠けている場合には、例えば[1873—1897]のように補足されている。(エ)編著者名。(オ)発行地・発行所・発行年。表題紙にそれらが欠けている場合には、例えば[Berlin, Mattisson, 1923]のように可能な限り補足する。(カ)ページ数。巻末の最終ページ数のみ、したがって、序文の普通はローマ数字で表されているページ数は無視されている。(キ)大きさ。cmで表示。(ク)企業者または企業の写真が載っている場合は、それぞれUPま WF と注記する。(ケ)叢書の一部として出版されたものについては、叢書名が記載されている。以上である。

ドイツでは、ベルリンの王立図書館を中心にしていればプロイセン式とでも呼ぶべき表記(ヘッディング)の細則が作られた(Instruktionen für die alphabetischen Kataloge der preußischen Bibliotheken vom 10. Mai 1899, 2. Ausg. in der Fassung vom 10. August 1908, Berlin 1909, X, 179 S. 5. Nachdruck, Leipzig 1970)。その全てが現在も有効であるとは思われなし、この社史目録の作成の際に参考にした先述の(4)の Ina Neumann の目録のように、書名のアルファ

ベット順に列記するのも見安いものではない。それゆえ、まず(ア)企業名を Handbuch der Grossunternehmen 等によりながら作出し、第1主語ではなく形容詞を含めた第1語から、個人名を冠した企業名の場合は姓(Zuname)のアルファベット順に配列する方法をとったのはすぐれたことであろう。その際、今少し詳しい細則が必要であったように思われる。例えば、ドイツのカatalogではウムラウトはeと読みかえ配列し、この点はコンピューターの導入後も変化がないが、この目録の本文ではウムラウトを無視して、Duisburg→Düsseldorfのアルファベット順になっているのに対して、索引では Düsseldorf→Duisburgの順になっている。また、CarlとKarl, SparcasseとSparkasseといったCとKの処理方法も定めておくべきであろう。この目録を通読して気付いたことを以下に列挙しておくならば、(ア)人名については、名(Vorname)も完全に、例えば、Nr 45 Fried. KruppはKried [rich] Kruppに、Nr 143 Ludw. LoeweはLud [wig] Loeweといった形で復元すべきである。このことは、社史の本文を見るなり、他の目録類なり Handbuch der deutschen Aktiengesellschaftenを参照するなりすれば、相当程度は可能なはずである。(イ)所在地について、ドイツでは同名の地名が極めて多いので今少し地域名を併記すべきであろう。例えば、Nr 103 Neuhausen, Nr 553 Burgdorf等。また、東西両ドイツへの分裂によって所在地を変えた企業等のうち、以前の所在地がわかっているものについては、例えば Nr 31 Georg von Giesche's Erben, Hamburg (Früher Breslau), Nr 487 Philipp Reclam jun., Stuttgart (bis Jahre 1947 Leipzig)のようにそれを併記すべきであろう。その他、

Nr 386 Herzberger (Harz)は Herzberg (Harz)の、Nr 409 Herzfoldは Herfoldの誤記、Nr 396 Münster (Württ.)は Münster (Westf.)の誤りか。「地名索引」のBadenの項は削除すべきである。(エ)編著名について、若干の脱落があるように思われる。例えば、Nr 143 Lud [wig] Loewe社の社史の著者は Conrad Matschoss und Georg Schlesingerのはずである。(オ)発行年不確定のものが17タイトル残されているが、他の目録類とりわけ地方史目録を調べるなり、ドイツの図書館に照会するなりすれば、少しは減少したであろう。(カ)ページ数については、本文のみならず、序文および巻末付録のページ数も挙げるべきである。Nr 752 Industrie- und Handelskammer Heidenheim (Brenz)... 144 S.のページ数は114, XVI S.の誤りか。(ク)内容注記について、文献目録を載せているものについては、そのむね記すべきであろう。このことは、ドイツの図書館でも行われ始めたことであり(Vgl. Deutsche Nationalbibliographie, hrsg. v. Deutschen Bücherei), わが国の国立国会図書館カードでも採用されている1970年代の新しい点である。例えば、Nr 476 Deutsche BüchereiについてはBibl. S. 287-367と、Nr 486 Verlag Philipp Reclam jun., LeipzigについてはBibl. S. 489-502と注記すべきである。なお、最後のものについては、(ケ)叢書名(Reclams Universal-Bibliothek, Bd. 384)が落ちている。今一つ、これは蔵書目録であるから、各タイトルに図書館の分類記号を付けるべきだったであろう。今後、蔵書数が増えてくれば通し番号は役立たなくなってきた、図書カードから分類記号を索出しなければならなくなるであろう。そうした二重手間を省くためにも蔵書目録には分類記号

(第1表) 発行年代別収録社史数

	戦 前			戦 後				不明	合計
	1900-	1901- 1918	1919- 1944	西 ド イ ツ			東 ド イ ツ		
				1945- 1955	1956- 1965	1966- 1972			
A. 鉱山・冶金業	1	8	15	13	27	13		1	78
B. 土石工業		1		2	4	4			11
C. 鉄・金属工業		1	4	10	6	5		3	29
D. 機械工業		4	16	17	38	29	1	2	107
E. 電器工業	1	2	8	4	11	6		2	34
F. ガス・水道・電気				9	7	5		1	22
G. 化学工業			9	8	18	14	1	2	52
H. 食品工業			7	5	21	9			42
I. 農業経営				4	1	1			6
J. 製紙工業			1	2	4	1		1	9
K. 木材工業				1	2	2			5
L. 皮革工業			3		1	1			5
M. 繊維工業			5	12	10	2	1		30
N. 建設業			1	3	5	7		1	17
O. 商社・仲介業		1	3	2	6	4			16
P. 印刷・出版業	1	3	5		4	18	2		33
Q. 銀行・取引所	2	5	13	20	40	34		1	115
R. 保険業	1		6	6	11	9			33
S. 交通業	1	3	3	3	8	13			31
T. 広告業・博覧会・メッセ					2	2			4
U. 個人伝記	3	2	19	5	8	9		3	49
V. 商工会議所		2	3	8	16	9			38
W. 経済団体	2	2	7	6	6	3			26
X. 国家・自治体	1	1	9	3	7	2	1		24
合 計	13	35	137	143	263	202	6	17	816

が必要である。

次に、産業分類と蔵書構成について。この目録では(1) H. Corsten のドイツ社史目録に準拠して産業分類表が作られているが、ドイツの産業分類表は、プロイセン統計局長であったエンゲル (Christian Lorenz Engel 1821-1896) が1875年「ドイツ帝国営業調査」に際して作成したものを原型として、それを修正するということで、それ自体一つの歴史を持っている。参考までにエンゲルの産業大分類表を挙げておくと以下のようである。I 園芸農業、II 漁業、III 鉱山・製鉄・製塩業、IV 土石業、V 金属加工業、VI 機械工業、VII 化学工業、VIII 燃料・照明品工業、IX 繊維工業、X 製紙・皮革工業、XI 木材工業、XII 食品工業、XIII 被服・洗濯業、XIV 建設業、XV 印刷業、XVI 美術品業、XVII 商業、XVIII 交通業、XIX 宿泊・飲食業 (Statistik des Deutschen Reichs, Alte Folge, Bd. 34, T. 1-2)。

それに対して、ここで採用されている産業分類のまま、816タイトルを発行年代別に分類してみたのが第1表である。その内わけは、第2次大戦前の出版物が185タイトル (22.67%)、戦後西ドイツのものが608タイトル (74.51%) と圧倒的に多く、それに比して東ドイツのものはわずかに6タイトル (0.73%)、残り17タイトル (2.09%) が発行年不明ということになる。そのうち最古のものは個人伝記の Nr 729 [Barthel Heinrich] Strousberg (1876年)、ついで工科大学史の Nr 808 Königliche TH zu Hannover (1881年)、社史の方では出版業の Nr 485 Justus Perthes, Gotha (1885年) と銀行業の Nr 537 Bayerische Hypotheken- und Wechsel-Bank, München (1885年) ということになる。もつとも第2次大戦前の出版物の大部分はヴェイマル・ナチ期のものに集中していて、古書

店を通じて社史類を入手しようとする場合には、それ以前のものが入手したいという事情を反映しているのであろう。これら大戦前出版物の蔵書のなかには、研究上で貴重なものが多数含まれている。大戦後のものは、西ドイツのものということになるが、さらに単年度別にみると、1967年41タイトル、1968年48タイトル、1969年54タイトルをピークとして、1972年14タイトルで終わっている。これは、社史類の寄贈依頼をする場合に、先の(4) Ina Neumann の社史目録が基礎になっていることを窺わせる。東ドイツのものがわずかに6タイトル (Nr 137, 317, 429, 476, 486, 797) というのは、問題を残すことになるであろう。

その構成は、AからTまでが社史、Uが個人伝記、VからXまでが団体史ということになる。社史の産業構成は、Q銀行・取引所の115タイトルを頂点に、D機械工業の107タイトル、A 鉱山・冶金業の78タイトル、G 化学工業の52タイトルが多い順序となる。これもある意味では、ドイツ経済の構造の反映ではあろうが、M 繊維工業30タイトルというのは少し弱いように思われる。また、P印刷・出版業については、京都大学経済学部『上野文庫解題目録・新聞部門(1)(2)』(1960—1961年) 所収のものの方が秀でている。そのP印刷・出版業のうち、Nr 476 Deutsche Bücherei, Leipzig は図書館であるから研究機関として別出すべきである。U個人伝記49タイトルのうち、最も多いのがクルップ8タイトル (Nr 704-711)、ついでジーメンス7タイトル (Nr 722-728) であるが Haus Krupp 3タイトル (Nr 49, 50, 51) がA 鉱山・冶金業の部に、Haus Siemens 2タイトル (Nr 254, 255) がE電機工業の部に収められているから注意を要する。W経済団体のうち、Nr 775 Dresdner Bank, Genossenschafts-Abteilung,

(第2表) 収録社史の地帯別分布

	ラインラント ヴェストファ ーレン ザールラント	ヘッセン フランクフル ト プファルツ	バーデン ヴュルテム ブルク バイエルン	ハムブルク ホルシュタイ ン ハノーヴァー	ザクセン テューリンゲ ン	ベルリン ブランデンブ ルク	シュレージエ ン	計
A. 鉱山・冶金業	57	4	5	4	2	2	4	78
B. 土石業	3	3	2	1	1	1		11
C. 鉄、金属工業	13	5	5	4	2			29
D. 機械工業	34	11	28	19	8	7		107
E. 電器工業	5	4	6			18		33
F. ガス・水道・電気	10	3	4	5				22
G. 化学工業	16	14	11	10	1			52
H. 食品工業	15	6	9	10	1	1		42
I. 農業経営	1	1	2	2				6
J. 製紙工業	1		5	2		1		9
K. 木材工業	1	2	1	1				5
L. 皮革工業	1		3		1			5
M. 繊維工業	7	3	12	6	2			30
N. 建設業	10	2	3	1		1		17
O. 商社・仲介業	4			10		2		16
P. 印刷・出版業	10	4	7	3	6	3		33
Q. 銀行・取引所	26	20	32	20	3	15	2	115
R. 保険業	5	3	11	5	3	6		33
S. 交通業	6	3	4	18				31
T. 広告業・博覧会・メッセ	1	1	2					4
V. 商工会議所	14	7	11	5	1			38
W. 経済団体	7	3	5	2		9		26
X. 国家・自治体	4	3	3	6	3	3	2	24
計	251	102	171	134	31	69	8	766
%	32.77	13.32	22.32	17.49	4.05	9.01	1.04	100.00

Berlin は、今後、労働組合史も収集するのであれば、別出すべきであろう。また、Nr 779 Hamburgisches Welt-Wirtschafts-Archiv は、研究機関として別出すべきであろう。最後のX国家・自治体の部は、a) 官庁4タイトル、b) 郵便・鉄道3タイトル、c) 教育機関11タイトル、d) 都市6タイトルであって、そのうち比較的まとまっているc) 教育機関でも工科大学 (TH) 史は5タイトルあるが総合大学史はフライブルク大学のものしかない。ドイツでは尤大な市史が発行されているが (Vgl. Bibliographie zur Städtegeschichte Deutschlands, hrsg. v. Erich Keyser, Köln-Wien 1969, IX, 404 S.), ここにはわずか6タイトルというも淋しい。また、Nr 797 Leipzig Messeamt は、内容的にはT広告業・博覧会・メッセの部に入れるべきであろう。このX部門は再構成する必要があるように思われる。

ドイツの場合は、産業別構成と並んで重要なのが地帯別構成である。この目録には「地名索引」が付いているけれども、それは都市名をアルファベット順に並べたものであるから、U個人伝記49タイトルとNr 258 Schwanden [スイスの村落名か?] を除いた766タイトルについて、その所在地を第2帝制期を基準に分類してみたのが第2表である。各原本をみていなくて推定せざるをえなかったものが一部あって、正確を期しがたいことを断っておかねばならないが、この表から大凡の傾向がわかるであろう。すなわち、シュレージエンのものがわずかに8タイトル (Nr

662を加えられれば9タイトル)、ベルリン・ブランデンブルクの69タイトルを加えても東エルベ型の企業は全体の1割にしかすぎない。そのことは、Q銀行・取引所の部には東エルベの各州にできるラントシャフト (地主金融組合) の社史が含まれていない、またI農業経営の部にはユンカー経営が含まれていないことにも表現されている。さらに、中間地帯のザクセン・テューリンゲンのものも、東ドイツ (DDR) の社史が集められていないことも関連して少なく、ラインラント・ヴェストファーレン (一部ザールラントを含む) のものが全体の3分の1近くを占めている。もちろん、ラインラント・ヴェストファーレンの優位を否定するつもりはないが、地帯別構成を考慮した収集体制が必要であろう。

以上、批判点を強いて列挙したが、この「東京経済大学図書館所蔵・ドイツ社史・企業者伝記目録」は、わが国の本格的な外国社史目録としては最初のものであって、その編集方法は類似の企てに対して一つのモデルを提供するであろう。また、蔵書の内容は、量的質的にもわが国で最大最良のものであって、今後とも収集を精力的に行われるとともに、それが全国の研究者に公開利用されるよう希望する。

追記、校正中に戦前の社史目録を新たに発見した。

Katalog der Fest- und Denkschriften wirtschaftlicher Betriebe (Dr. Hjalmar Schacht-Sammlung) Berlin, 1937.